

富山県におけるマイワシの漁獲動向について  
～これからのマイワシ漁況を占う～

海洋資源課 副主幹研究員 瀬戸 陽一

## 1 背景・ねらい

近年、日本各地でマイワシ漁獲量が増加傾向にあり、富山県でも2011年から漁獲量の増加が認められ、62～11,511 トンで増減を繰り返している（図1）。2011～2020年の年間平均漁獲量は4,233 トンとなり、魚種別では第1位で県内総漁獲量の20%を占めた。マイワシはTAC魚種であるものの、これまで本県には採捕数量制限は課せられていなかったが、2021年から6,700トンの漁獲枠が設定されることになった。

本県漁業においてマイワシ漁獲量が全体に占める割合は高く、また漁獲枠が設定されたことから、漁業者の計画的・効率的な操業に資するため、マイワシ漁獲動向を明らかにするとともに、マイワシ漁況予測手法の開発を試みた。

## 2 成果の概要

2011～2019年のマイワシ対馬暖流系群資源量は20～30万トン程度で、大きな増減は認められない（図1）。2011年以降の本県漁獲量の激しい年変動は、資源量変動の反映ではなく、年ごとの回遊ルートや富山湾への来遊条件等の変化で引き起こされた可能性がある。また、主要産卵場が東シナ海から日本海に移ったことが、本県漁獲量が増加基調である要因のひとつであると考えられる。

本県沿岸へのマイワシ来遊開始時期は、2月上旬～3月下旬の約2か月である。漁獲量が激減した2014年と2017年を除き、2011年以降、まとまった量のマイワシが漁獲され始める「マイワシ初漁日（マイワシが連続して25トン以上の漁獲があった初日）」における氷見市姿地先の海水温（15日移動平均値）は11.3℃以下であった（図2）。

初漁日と年間漁獲量との回帰分析をおこなったところ、初漁日が遅くなると年間漁獲量が減少する関係がみられた（図3）。その年の氷見市姿地先の海水温が11.3℃に低下する日を推定することで、本県のマイワシ漁況を予測することが可能になった。

## 3 成果の活用面・留意点

本研究で開発を試みたマイワシ漁況予測手法は、海水温と初漁日の相関関係のみから導いた簡便なものであり、確実性が高いとは言えない。今後、日本海の家況等との関係性を検討することで、予測精度の向上に努めたい。

## 4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課  
担当：瀬戸 陽一  
TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

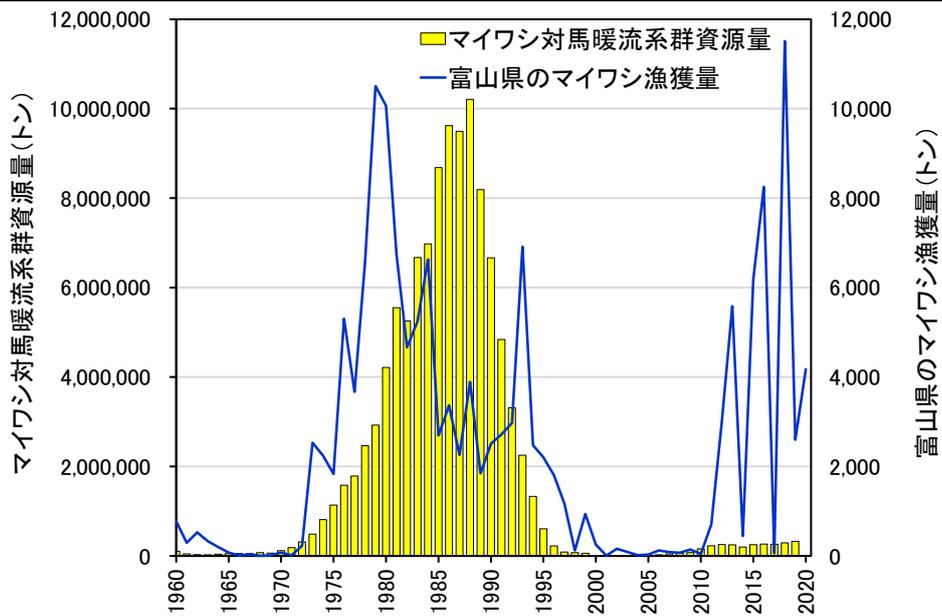


図1 マイワシ対馬暖流系群資源量と富山県のマイワシ漁獲量の推移

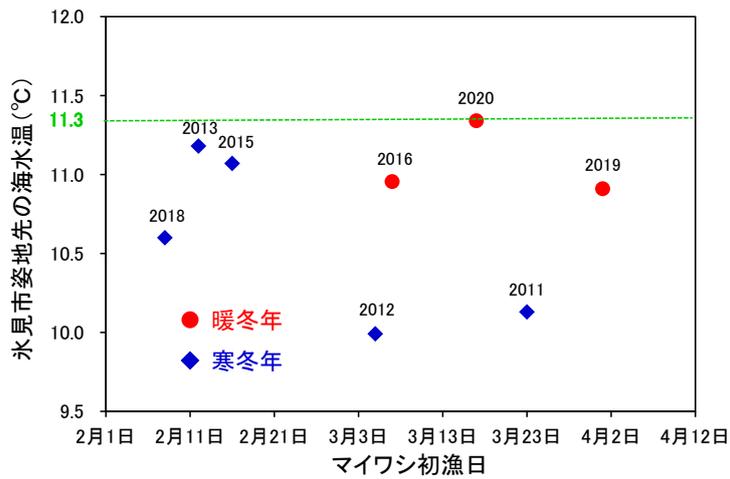


図2 マイワシ初漁日における氷見市姿地先の海水温（15日移動平均値）

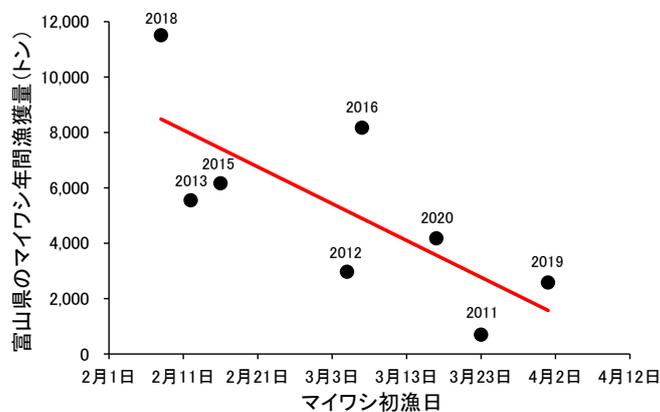


図3 マイワシ初漁日と富山県のマイワシ年間漁獲量との相関関係